

伝染性紅斑(リンゴ病)

1 伝染性紅斑(リンゴ病)はどんな病気？

- ① ヒトパルボウイルス B19 を原因とする流行性発しん性の感染症で小児(幼児～学童)に多く見られますが、成人の発症も見られます。
- ② 両頬がリンゴのように紅くなることから「リンゴ病」と呼ばれることもあります。
- ③ 冬から初夏にかけて流行しますが、年間を通じて患者が発生します。
- ④ 感染症法では定点把握対象の5類感染症に分類され、指定された小児科医療機関が届出基準に基づいて診断した場合、保健所に届出がされることになっています。

2 どんな症状があるの？

- ① 10～20日の潜伏期間の後、微熱や風邪の症状が見られ、その後頬に境界鮮明な紅い発しんが現れ、続いて手・足・身体に網目状(レース状)の発しんが見られます。これらの発しんは、1週間程度で消失します。
- ② 成人では関節痛・頭痛が見られることがあります。
- ③ 妊娠中(特に妊娠初期)に感染した場合には、まれに胎児の異常(胎児水腫)や流産が起こることがあります。

3 どうやって感染するの？

- ① 飛沫感染(せきやくしゃみで飛び散るしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことにより感染)と接触感染(ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることにより感染)があります。
- ② 微熱や風邪のような症状がみられる時期にウイルスの排出が最も多くなります。発しんが現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失します。

4 治療方法と予防策は？

- ① ワクチン(予防接種)はありません。
- ② 特別な治療法はなく、対症療法です。
- ③ 一般的な予防策である手洗いやマスクを使用するなどの咳エチケットを励行しましょう。
- ④ 妊婦などは風邪症状の人に近づくことを避けましょう。
- ⑤ 微熱や風邪のような症状がある小児等との接触により感染拡大することがないよう、保育所・学校等の集団生活においては特に感染予防に気をつけましょう。